

# 27人と3団体をたたえる

12月19日、ふるさとのみちづくりに寄与した皆さんをたたえる「ふるさと市民賞」の表彰式が行われ、27人と3団体が受賞しました。表彰を受けた皆さんは次の通りです。(敬称略)

【社会福祉の充実・市民生活の安定向上】 ■井手和芳(城南町) ■大久保康博(高良内町) ■小城一郎(北野町) ■坂井保子(城島町) ■田中和義(北野町) ■豊田勝之(通

町) ■中村隆幸(荒木町) ■西愛人(上津町) ■原武稔(三瀨町) ■東元明(花畑) ■堀内伸剛(中央町) ■森永均(諏訪野町) ■子育て支援ボランティアくるるん(天神町) ■にこにこ会(西町)

【芸術文化・スポーツの振興】 ■今村翠(城島町) ■小形公一(安武町) ■坂井ふぢ子(梅満町) ■境二三子(城島町) ■白石廣己(上津町) ■豊福幹雄(中央町)

【地域産業経済の振興】 ■宮崎威(宮ノ陣) ■城島酒蔵びらき実行委員会(三瀨町) ■消防団活動 ■荒木敦子(三瀨町) ■川島正春(荒木町) ■草場保之(宮ノ陣町) ■執行祐一(長門石町) ■関朱美(城島町) ■中園薫(城島町) ■弥永誠二(山本町) ■八尋美佐(宮ノ陣町)

◎総務課 ☎0942・30・9052、FAX 0942・30・9706



受賞者の皆さんと来賓、主催者

## 受賞団体紹介

自分を出せる場所に  
にこにこ会 理事長 岩坂茂子さん

認知症の人と家族を支える同会は、平成7年に発足。当時、社会の認知症への理解が不十分で、介護は「長男や嫁の当たり前の仕事」と考える人も多く、岩坂さんは「家族が気持ちを出せる場が必要でした」と、設立のきっかけを話します。

交流会を毎月開催する他、毎週火曜日に介護の悩みなどの電話相談を受けています。同会について「介護をしている人が、自分の失敗談をざっくばらんに話すと、介護が

始まったばかりの人も話しやすい、「つらいのは自分だけじゃない」と思えるんです」と話します。同会は市と共に講演会も開催。「認知症のことを、もっと多くの人に知ってもらい、特別視されない社会になってほしいです。『認知症になってもいいじゃん』くらいに」と、抱負を話しました。



## まちの話題

### 自分でついた餅は格別

#### ◆坂本繁二郎生家餅つき大会

12月16日、坂本繁二郎生家で餅つき大会が開かれ、園児や児童、保護者など、約50人が参加しました。京町校区の住民の皆さんが蒸したもち米を臼ですりつぶし、それを子どもたちがついて仕上げました。きな粉餅や砂糖しょうゆの餅の他、サツマイモを練り込んだ「芋餅」を作り、作業を終えた子どもたちは、満足そうな表情で頬張っていました。



2人一組で息を合わせて交互に餅をつきました

### 私たちのお弁当いかがですか

#### ◆筑水高校生オリジナル弁当を考案

12月9日と10日、筑水高校食物調理科の生徒5人が考案した弁当を、道の駅くろめで販売しました。店頭には、地元の旬の食材を使った「冬野菜たっぷり元気弁当」など、5種類が並びました。5人は、レシピを配りながらPR。準備していた400食は、ほぼ完売しました。生徒の一人は「どれもお客さんに好評でした」と話しました。



レシピを渡して、弁当を勧める筑水高校の生徒

## 市政の動き

### ジュニア選手をメダリストが指導

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、久留米市は、ジュニア世代のレベルアップを図る「トップアスリート支援」を始めました。

12月9日、南筑高校に柔道世界選手権メダリストの七戸龍選手と、弟の虎選手を招き、柔道教室を開催。技に入る時のこつなど、実演を交えた丁寧な指導が行われました。他にも、陸上や自転車など、さまざまな競技で開催しています。

◎体育スポーツ課 ☎0942・30・9226、FAX 0942・30・3825



稽古を見て、その選手に合わせた指導をした七戸龍選手(中央)

### マンホールカード久留米版が登場

久留米市は、市と下水道のPRにつなげようと、全国で人気を集めているマンホールカードの久留米版を発行しました。12月時点で252の自治体が発行しています。

カードの表には、筑後川と耳納連山、久留米ツツジがデザインされたマンホールのふたの写真、裏にはデザインの由来を掲載。発行枚数は2万枚で、12月9日から久留米シティプラザで無料配布しています。

◎上下水道部総務 ☎0942・30・8504、FAX 0942・30・8570



カードの表(左)と裏。市内のどこにあるかも確認できます